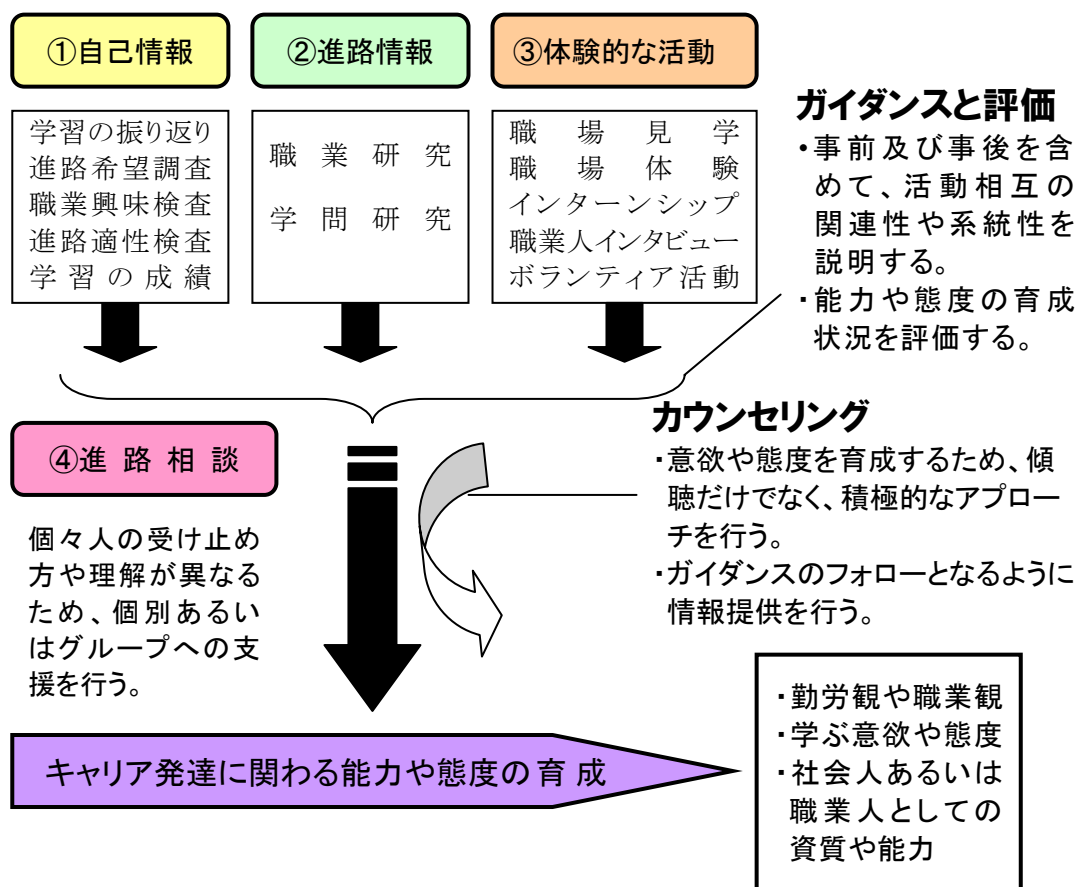


Q4 キャリア教育の視点を生かすことで進路指導の展開はどのように変わるのか？

A4 一人一人の児童生徒の発達に着目して、学ぶ意欲や態度、社会人や職業人としての資質や能力を確実に身に付けさせるために、これまで以上に系統的なガイダンスが求められるようになります。

- 活動の前後のガイダンス、他の活動との関連などを明確にして、『能力や態度』の育成を軸とした学習プログラム」となるようにします。
- 面談などのカウンセリングを、ガイダンスと関連付けて実施します。
- 生徒一人一人の変容を、活動を通して的確に評価し、把握します。

■ キャリア教育の視点を生かした進路指導の展開



事例紹介

ここでは、進路希望調査を生かして、情報提供や進路選択を支援するためのガイダンスや進路相談を展開しようとしている事例を紹介します。

事例7〔高等学校〕ガイダンスとカウンセリングの体制づくり

この高校では、2年次からのコース選択に向けてガイダンスを充実させるために、進路希望調査票の形式を工夫したり、個別のフォローのための相談の機会を計画的に設定したりしています。

■ 事例の特徴：進路希望、進路設計、レディネスの把握

「進路希望」は希望先だけでなく、どのような考えをよりどころにして判断しているかを知ることが大切です。「どのような情報が不足しているのか」あるいは「どのようなことで判断に迷っているのか」などを把握することで、効果的なフォローが可能となります。また、次の段階のガイダンスの留意点も明らかになります。

① 調査票

進路希望調査		(平成17年9月実施)
□年 □組 □番 氏名 	卒業後の進路について、各項目の指示にしたがって回答してください。 1 進学希望 次の①、②については、選択肢の中から希望の種別・系統選び記号で答える。 ③については志望する学校名・学部名・学科名を記入する。	
3 進路希望に関する自分の考え ① 現在の進路希望について ア かなり希望が固まっている ウ 少し迷っている部分もある イ ある程度希望が固まっている エ かなり迷っている部分がある ウ、エを選んだ人は、「迷っている部分」について具体的に書いてください。	☆ (記述例) 希望した医療系の分野の学問や仕事に向いているか心配である。 ② 実現の可能性について ア かなり可能性があると思う ウ やや厳しいと思う イ やや可能性があると思う エ かなり課題が多く厳しいと思う ③ 将来、高校を卒業してから仕事に就くまでをイメージして、その道すじを簡潔に書いてください。また、そのように考える理由も書いてください。	
☆ (記述例) 外国語系の学部に進学して、その後外資系の企業に就職したい。なぜなら自分の活動する範囲を、県内や日本国内だけに限定したくないから。 ※ 進路について聞きたいことがあれば書いてください。		

具体的な希望先とあわせてガイダンスや個別のフォローの必要度を把握する。

将来設計の能力や態度を把握する。

② 集計と個別のフォロー

	種別	類型 (コース)	現在の進路希望について	実現の可能性について	仕事に就くまでの道筋
生徒A	国公立大学	文系	かなり迷っている部分がある。	やや可能性があると思う。	とりあえず大学に進学する。 →大学で資格をとる。 →もっている資格を生かして就職する。
生徒B	各種学校 専門学校	理容・美容、 調理系	すこし迷っている部分がある。	やや難しいと思う。	専門学校へ行き、メイクなどを学び、その後、化粧品売り場などで働く。 なぜなら、お化粧するのが小さい頃からあこがれていたから。
生徒C	国公立大学	理系	かなり迷っている部分がある。	課題がかなり多く、厳しいと思う。	行きたい学部に進学して、就職したい。

○ ガイダンスのポイント

- ・大学で学ぶことと専門学校で学ぶことの違いを理解するための情報が得られていない。→進学説明会のテーマや内容の設定
- ・自分の将来設計のモデルとなる存在が希薄である。
→先輩に学ぶ(卒業生との懇談会のテーマ設定) (生徒A)
- ・現実的職業の理解が不足しがちである。(生徒A)
- ・あこがれだけで選択しがちである。(生徒B)
→進学説明会のテーマや内容の設定

○ カウンセリングのポイント

- ・学力等の課題から実現の難しい進路希望の場合、フォローしながら、自己を生かす進路の分野を探索しようとする意欲を喚起しなければならない。グループ・カウンセリングなど、方法の工夫が必要である。(生徒C)。

事例から学ぶこと

日々の指導の中では、それぞれの教員が行う評価や現状分析だけで終わってしまうことがあります。また、学級単位の集計結果にばかり目が向き、個々の生徒の変容を見落とすこともあります。そこで、アンケートや調査などの項目を少し工夫するだけでも、一人一人の発達の課題が浮き彫りになると考えられます。ガイダンスとカウンセリングの機能を生かすためには、生徒一人一人の活動を通して現状を把握することや評価可能なデータを得ることが大切です。

また、こうした現状把握や評価の結果は、できるだけ指導にあたる教員同士で共有することが大切です。それにより、学級などの単位か個別かの二者択一の指導形態だけでなく、多様なグループを編成してガイダンスやカウンセリングを試みることができます。

○ 勤労観や職業観を育む学習プログラムの枠組み(例) — 職業的(進路)発達にかかわる諸能力の育成の視点から

国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の勤労観や職業観を育む教育の推進について(調査研究報告書、平成14年11月)」より

			小 学 校		
			低学年	中学年	高学年
職業的(進路)発達課題			進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期		
○職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成		
職業的(進路)発達に関わる能力			職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度		
領域	領域説明	能力説明			
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 友達と仲良く遊び、助け合う。 お世話になった人などに感謝し親切にする。	自分のよいところを見付ける。 友達のよいところを認め、励まし合う。 自分の生活を支えている人に感謝する。	自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。 話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	あいさつや返事をする。 「ありがとう」や「ごめんなさい」を言う。 自分の考えをみんなの前で話す。	自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 友達の気持ちや考えを理解しようとする。 友達と協力して、学習や活動に取り組む。	思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心を持つ。	いろいろな職業や生き方があることが分かる。 分からないことを、図鑑などで調べたり、質問したりする。	身近な産業・産業の様子やその変化が分かる。 自分に必要な情報を探す。 気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	係や当番の活動に取り組み、それらの大切さが分かる。	係や当番活動に積極的に関わる。 働くことの楽しさが分かる。	施設・職場見学等を通じ、働くことの大切さや苦労が分かる。 学んだり体験したりしたこと、生活や職業との関連を考える。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。	社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 仕事における役割の関連性や変化に気付く。
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	作業の準備や片付けをする。 決められた時間やきまりを守ろうとする。	将来の夢や希望を持つ。 計画づくりの必要性に気付く、作業の手順が分かる。 学習等の計画を立てる。	将来のことを考える大切さが分かる。 憧れとする職業を持ち、今、しなければならぬことを考える。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	自分の好きなもの、大切なものを持つ。 学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 してはいけないことが分かり、自制する。	係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	自分のことは自分で行おうとする。	自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 自分の力で課題を解決しようと努力する。	生活や学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。 将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。

* 太字は、「勤労観や職業観の育成」との関連が強いものを示す

			中 学 校	高 等 学 校
職業的(進路)発達課題			現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・試行と社会的移行準備の時期
○職業的(進路)発達課題(小～高等学校段階) 各発達段階において達成しておくべき課題を進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの			・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観や職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索	・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観や職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加
職業的(進路)発達に関わる能力			職業的(進路)発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度	
領域	領域説明	能力説明		
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。	【 自他の理解能力 】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	自分の良さや個性が分かり、他者の良さや感情を理解し、尊重する。 自分の言動が相手や他者に及ぼす影響が分かる。 自分の悩みを話せる人を持つ。	自己の職業的な能力・適性を理解し、それを受け入れて伸ばそうとする。 他者の価値観や個性のユニークさを理解し、それを受け入れる。 互いに支え合い分かり合える友人を得る。
		【 コミュニケーション能力 】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 新しい環境や人間関係に適応する。	自己の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解する。 異年齢の人や異性等、多様な他者と、場に応じた適切なコミュニケーションを図る。 リーダー・フォロアーシップを発揮して、相手の能力を引き出し、チームワークを高める。 新しい環境や人間関係を生かす。
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【 情報収集・探索能力 】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに、必要な情報を選択・活用し、自己の進路や生き方を考えていく能力	産業・経済等の変化に伴う職業や仕事の変化のありましを理解する。 上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略が分かる。 生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。 必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。	卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討する。 就職後の学習の機会や上級学校卒業後の就職等に関する情報を探索する。 職業生活における権利・義務や責任及び職業に就く手続き・方法などが分かる。 調べたことなどを自分の考えを交え、各種メディアを通して発表・発信する。
		【 職業理解能力 】 様々な体験等を通して、学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。	就業等の社会参加や上級学校での学習等に関する探索的・試行的な体験に取り組む。 社会規範やマナー等の必要性や意義を体験を通して理解し、習得する。 多様な勤労観や職業観を理解し、職業・勤労に対する理解・認識を深める。
将来設計能力	夢や希望を持って将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【 役割把握・認識能力 】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。	学校・社会において自分の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たす。 ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 将来設計に基づいて、今取り組むべき学習や活動を理解する。
		【 計画実行能力 】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	生きがい・やりがいがあり自己を生かせる生き方や進路を現実的に考える。 職業についての総合的・現実的な理解に基づいて将来を設計し、進路計画を立案する。 将来設計、進路計画の見直し再検討を行い、その実現に取り組む。
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【 選択能力 】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとする。 選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことなどを理解する。 教師や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。	選択の基準となる自分なりの価値観、勤労観や職業観を持つ。 多様な選択肢の中から、自己の意志と責任で当面の進路や学習を主体的に選択する。 進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、実現可能性について検討する。 選択結果を受容し、決定に伴う責任を果たす。
		【 課題解決能力 】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かす。 よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出ししていくことの大切さを理解する。 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していくこととする。	将来設計、進路希望の実現を目指して、課題を設定し、その解決に取り組む。 自分を生かし役割を果たしていく上での様々な課題とその解決策について検討する。 理想と現実との葛藤経験等を通し、様々な困難を克服するスキルを身に付ける。